

### 第4章 フォーカス・オン・フォームの活動：中学編

第2章、3章でみてきたフォーカス・オン・フォームと CLIL の理論的な考え方について、これらをいかに英語の授業で実現できるかについて考える。中でも本章は中学の教科書の活用・発展法について扱う。☆今回はフォーカス・オン・フォームの具体的な活動について焦点を当て、筆者の提案を踏まえたいうえでほかにどんな活動が考えられるか検討していきたい。

**Example1 : I want to be a chef.**

☞ 対象 NEW HORIZON English Course 2(平成 28 年度版、東京書籍)

Unit 3 Carrer Day

…留学生が職業体験としてレストランを訪れる話が掲載されている。この Unit のパート 2 ではその翌日に留学生同士がお互いの職業体験について会話を繰り返している場面が描かれる。

☞ Alex : Deepa, where did you go on Career Day?  
 Deepa : I went to an Italian restaurant. I want to be a chef.  
 Alex : Wow. How was it?  
 Deepa : It was interesting, but I got tired. I tried to learn the whole menu, but I couldn't.  
 Alex : I see. I went to a newspaper company. I want to be a journalist.  
 Deepa : Sounds interesting. I want to hear about it.

出典：NEW HORIZON English Course 2, p. 34 (平成 28 年度版、東京書籍)

☞ 目標文法事項 不定詞の名詞用法(～すること)

☞ 教科書にあるスピーキング活動の例

次の表に自分が将来つきたい職業を書きましょう。ペアになって対話をし、相手のこともメモしましょう。

	将来つきたい職業
◆	a soccer player
自分	
相手 ( )	

◆ A: What do you want to be in the future?  
 B: I want to be a soccer player. 将来

出典：NEW HORIZON English Course 2, p. 34 (平成 28 年度版、東京書籍)

☞ 問題点・工夫すべき点は何か

- ・活動の導入が少し唐突であるため生徒の動機づけが高まりにくい
- ・生徒が自信を持って取り組むために関連するインプットが必要である
- ・別ページにある **Bonus word box**(数々の職業名がイラストとともに掲載されている)を効果的に使うべき
- ・教科書は全国一律である  
→いかにしてその学校・クラスにあったものを教師が開発するかが重要

☞ 改善された活動例(筆者の場合)

《Popular jobs for junior high school students》

- ① どんな職業が人気のある職業だと思うか尋ねる
  - ・トップ 10 は何かペアで話し合い、予想してもらう
  - ・ここでは辞書は使わずに英単語を予測してもらう
  - ・生徒間の話し合いが終わらないころを見計らって②に移る
- ② ヒントの提示
  - ・話し合いを助けるためにランキングに入っている職業を順不同で提示する
- ③ 教師がクラスとのインタラクションを通して結果を発表する
  - ・黒板に職業名が書かれたカードを貼る、パワーポイントを使う、などの工夫をする
- ④ 教科書に掲載されているようなスピーキング活動に戻る

☞ 発展的活動のほかのアイデア

- ・「クラスの人気職業ランキング」と「なりたい職業世代比較」

- ・国際比較の観点から

- ・
- ・
- ・

他にどんなアイデアがあるだろうか

**Example 2 : I will show you some pictures tomorrow.**

☞ 対象 NEW HORIZON English Course 2(平成 28 年度版、東京書籍)

Unit 4 Homestay in the United States

…ホームステイ先で日本人留学生がホストマザーと会話をする中に will が使われる。

☞ 目標文法事項 助動詞 will

☞ ダイアログの後の教科書例

**I will show you some pictures tomorrow.**

助動詞 will  
「…するつもりです」「… (になる) でしょう」と意志や未来のことを表すには、「will + 動詞の原形」を使う。会話などでは、I will は I'll、it will は it'll[itl]と書くことが多い。

出典：NEW HORIZON English Course 2, p.57 (平成 28 年度版、東京書籍)

☞ 工夫すべき点

- ・基本文を活用しつつ生徒が考えながらできるタスクを考案したい

☞ 改善された活動例(筆者の場合)

《What will you do when you go to the United States for homestay ?》

- ・教科書でホームステイという題材が使われているので同じ題材を用いる
- ・もし生徒がアメリカに行ったら何をしたいか(want to ~)、何をしようと思うか(will)について考えてもらう
- ・対比しながら使う
- ・個人で考えた後、生徒同士で意見交換をする
- ・ホストファミリーといるとき、学校にいるとき、街に出たとき、の 3 つの場面を与える

**表 4 ● What will you do when you go to the United States for homestay? の活動表**

If you go to the United States for homestay, you can do a lot of things. What will you do? Fill in the chart below and exchange your ideas with your friends.		
With your host family	At school	In town
I will speak a lot of English!	I will join a PE class!	I will go shopping in the mall.
I will try American meals.	I will eat in the school cafeteria.	I will go watch a baseball game.

☞ 発展的活動のほかのアイデア

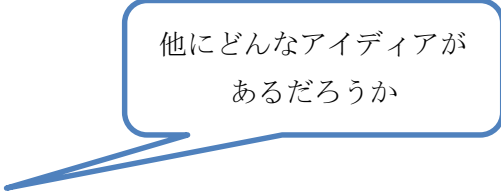
- Do's & Don't during homestay

- homestay troubleshooting

- homestay in Japan

- 

- 



他にどんなアイデアが  
あるだろうか

Example 3 : My parents want me to be a doctor.

☞ 対象 NEW CROWN ENGLISH SERIES (平成 24 年度版、三省堂)

Lesson 7 We can change our world

…世界の子供たちの声として以下のような文章が記載されている

***Maria, the Philippines :***

**I'd like to study abroad. My parents aren't sure. I want them to understand my dream. What should I do?**

***Boris, Russia :***

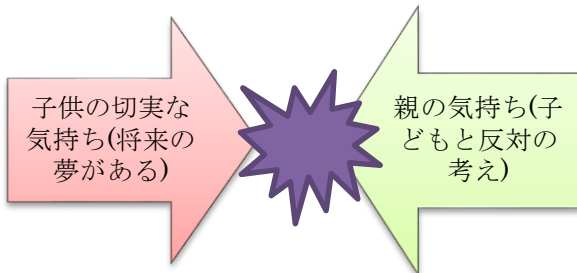
**I want to be a musician using computers. But my parents want me to be a doctor. Can I find a way to do both?**

出典 : NEW CROWN ENGLISH SERIES 3, p. 80、(平成 24 年度版、三省堂)

☞ 目標文法事項 want + A + to~ 「A に~してもらいたい」

☞ 活動例

テーマ



→自分たちはどうだろうか、親との意見の食い違いはないだろうか

① 教科書の内容を確認する

- ・内容と同時に目標文法に生徒の注意を引いていく

② アドバイス交換

- ・教科書の内容についてどうしたら解決するかロールプレイ等を通して考える
- ・グループ内で意見交換、全体発表など

③ 今度は自分自身について考える

- ・「将来なりたいもの」について考える
- ・自分の夢と親の希望を比較、不一致があるかどうかを考える

☞ 他のアイデア

- ・日常生活の場合

表5 ● Disagreements with your parents の活動表

Your parents' wish "My parents want me ..."	Your wish "I want ..."	Solution for any mismatch
e.g., To do my homework before having fun with friends	To have fun first and then do homework	I will tell my parents that I can study better after having fun.
e.g., To help them do the housework, like washing the dishes	To play my Nintendo instead	I don't mind clearing the table after dinner, but not washing the dishes.
e.g., To stop eating snacks before dinner	To eat my favorite snack (e.g., potato chips, Caramel Corn)	I will tell my parents that young people need more than three meals a day.

- ・
- ・

他にどんなアイデアがあるだろうか

◇ Teacher Talk のポイント

- (1) 生徒の日本語での発言にする教師の英語での返答  
理解能力のほうが発話能力よりもはるかに早く発達する  
→教師の英語の問いかけに対して、生徒が日本語で返すことは必ずしも悪いことと、とらえる必要はない  
→繰り返し聞かせることに重点を置くべきである
- (2) インタラクションで出てくる重要ポイントの板書  
教師の指摘(重要なポイントの板書)が後々の活動で役立つという授業の流れを習慣化させる  
→リスニング力を高めつつ、発話準備と意欲を高めていきたい
- (3) 生徒の間違いに対しての教師のリキャストやプロンプトを使った返答  
※リキャスト：  
生徒が“I want cartoonist.”といった発話に対して、教師が“You want to be a cartoonist.”と言  
い直してあげること  
※プロンプト：  
教師が“You want what?”や“I’m sorry?”などと言って返す
- (4) 未習事項と既習事項を織り交ぜた指導  
例：“Have you finished?”  
→コンテキストの中で触れていくうちに受容知識として学んでいけるので、先取り導入して  
も構わない
- (5) 日本語表現を英語表現で挟み込む手法  
もし教師の話す英語が生徒にとって難しそうならば日本語で補足するとよい  
その際、英語・日本語・英語の順で繰り返し、生徒が英語に触れる機会を与えることが重要である
- (6) 繰り返し、言い換え、例示等によるインプット理解の促進  
※ティーチャートーク  
…単に教師が使う言葉を指すのではなく、未習事項や未習文法などを含む英語のインプットを生徒  
にわかりやすく伝えてあげる技能のことを指す。現代の英語教師にとっては必須であり重要なスキ  
ルである。

(7) 図表、写真・絵などの視覚教材の活用

男子編		女子編	
BOYS		GIRLS	
Rank 1		Rank 1	
Rank 2		Rank 2	
Rank 3		Rank 3	
Rank 4		Rank 4	
Rank 5		Rank 5	
Rank 6		Rank 6	
Rank 7		Rank 7	
Rank 8		Rank 8	
Rank 9		Rank 9	
Rank 10		Rank 10	

職業ランキングの答え

- 男子編 1. baseball player 2. soccer player 3. entertainer/actor 4. teacher 5. chef/cook  
 6. researcher/professor 6. doctor 6. civil servant 9. game creator/game programmer  
 10. computer programmer/system engineer 10. carpenter
- 女子編 1. nursery teacher/kindergarten teacher 2. entertainer/actress 3. pastry chef 4. nurse  
 5. cartoonist/illustrator 6. designer/fashion designer 7. animal trainer/zookeeper  
 7. hairdresser 9. teacher 10. doctor

参照：「第2回子ども生活実態基本調査報告書 [2009年]」ベネッセ教育総合研究所

(8) 授業の流れの工夫

いつも教師からクラス全体へ一方通行とはせず、全体→個人→ペア→全体といったように臨機応変に変えることが望ましい。これによって教師の机間巡視のチャンスを増やし生徒の反応を細かく拾って柔軟に対応することも可能になるだろう。

【 まとめ 】

本章では中学校の英語科の授業でいかにフォーカス・オン・フォームを志向した活動が可能かについて考えてきた。教科書の題材を利用しつつコンテキストの中でいかに目標文法が練習できるか、インプットを十分に与えながらいかに生徒の好奇心をかきたてるか、活動に欠かすことのできないティーチャートークをいかに効果的に行うか、などこのような試みすべてが今回紹介した活動と相まって、フォーカス・オン・フォームの指導へとつながっていくのである。したがって、ただ目標形式を使わせるタスクを導入すればいいというわけではないということに注意し、授業を考えていきたい。